

Heartful Day

障がい者週間について

毎年、12月3日から9日までは、「障がい者週間」です

皆さんは「障がい者週間」について知っていますか？

「障がい者週間」は、障がいのある人があらゆる分野の活動に参加することを促進するために、「障がい者基本法」により設けられているものです。この期間を中心に、障がいや障がいのある人に対する関心や理解を深めるための取組が全国各地で実施されます。

内閣府では、都道府県と共催して、「心の輪を広げる体験作文」コンクールを実施しています。今年度の作文コンクールでは、本校3年次生の福田鈴蘭さんの作品が優秀賞に選ばれました。今日のハートフルデーでは、福田さんの作文から、自分自身にできることを考えてみましょう。

令和元年度「心の輪を広げる体験作文」コンクール「優秀賞」作品

笑顔の体験

3年次3組 福田 鈴蘭

私はこの夏、愛媛県立松山盲学校のオープンスクールに参加し、改めて人と人が支え合うことの大切さを感じました。

盲学校では、三つの体験をしました。

一つ目は、アイマスクをして見えない中で校内を歩く体験です。目隠しをして歩き始めると、「怖い」という思いでいっぱいでした。さっき自分が通ってきた廊下で、知っている道だとわかっているのに、とても怖くて困惑し、ただただ、ガイドヘルプをしてくれる人に頼ることしかできませんでした。一番怖いと感じたのは階段です。「階段があるよ」と言われても、あと何段位か、高さはどの位なのか、終わりはどこかなど、不安になることばかりです。その時盲学校の先生が「手すりを使ったら良いよ」と教えてくださいました。上がり始めや階段の終わりは手すりの傾きが違います。終わりが近付いてくると、傾きが変わってくるという構造に気付くと、恐怖が減りました。普段、何気なく通り過ぎていた手すりにも大切な役割があり、私が気付かない所にも色々な工夫がされていると知りました。私はこの体験を通して、以前の自分の行動を思い出しました。それは学校で階段を降りていた時のことです。前から、先生と高齢のお客様が階段を上がってこられました。私は寄ることしか考えられずに、その時の自分に近かった手すり側に寄りました。すると、先生に「手すり側や内側を譲らんといけんよ」と言われて確かにそうだと思ったのです。今回、盲学校で目隠しをした状態で階段を降りる経験をしたことで、尚一層、手すり側を譲ることの大切さを実感

しました。

二つ目に、目隠しをしている人にガイドヘルプをする体験をしました。自分が目隠しをしている時に感じた恐怖もかなり強かったのですが、ガイドヘルプはさらに難しく、ガイドヘルプをする側にも怖さがありました。特に今回は、私とは身長差がある人と活動をしたので、合わせないといけないことがたくさんありました。まず歩幅が違います。私としては普通に進んでいるつもりでも、相手からしたら早歩きだったりするので速度を調整しなければいけません。特に、目が見えない状態では怖さが強いということを思い出して、かなり意識してゆっくり歩くようにしました。案内する側を体験して学んだことは、自分が考えていることと、相手の考えは違うということです。例えば「少し」という言葉も、私と相手では違いました。「少し右」と声をかけると、私が思っている以上に相手が動いてしまって、表現の仕方が難しいと感じました。誰が聞いても分かるように、「10cm右」という様に、具体的に表現して声をかける必要があることを学びました。

今回、私自身が実際に、目が見えない時に感じる怖さや、ガイドヘルプをする人の気持ちを体験したことで、どの様に声をかけたら良いのか、どの様に案内をしたら良いのかなど、相手の気持ちを想像することが、ガイドヘルプをする上で最も大切なことであると感じました。

今回のガイドヘルプ体験は、盲学校の中の廊下や階段で行い、危険物も少なく、平坦な道で案内しやすい環境でした。でも、これが町中だったらと考えると、恐怖が増しました。例えば、点字ブロックの上に自転車などの物を置いている状況を目にすることがあります。「点字ブロックの上に物を置いてはいけない」という気持ちが、今回の体験を通して、とても強くなりました。点字ブロックが使えないということは、私にとって信号が隠れて見えない状況と似ている気がします。事故が起こるかもしれないと思うと、とても怖いです。点字ブロックの上に何か置いてあれば、自分の物でなくても動かすという勇気も必要だと感じました。目の見えない人がどう思うのかを考えることも大事ですが、もしも自分がその立場だったらどう感じるのかというように、自分に置き換えて考えてみると、このままにはいけない問題点にたくさん気付くことができました。

三つ目に、点字体験をしました。普段の生活でも、周りを見渡せば点字を見かけることがあり、点字は、意外と私たちの身近なものになっています。今回の体験では、点字を読む体験と打つ体験をしました。読み方にも打ち方にも規則があり、それを理解しながら点字を打ったことで、点字をより身近に感じることができました。一つ一つの点を打つ動作は意外と力が必要で大変でした。単語だけではなく、文章単位で打ち込むとなるとさらに大変ですが、点字は手で打つだけでなく、機械でも打てることを知り、便利な物があるなど感じ、これからは便利な物が増えていけば良いなと感じました。

私は、今回のオープンスクールでの体験を通して、将来は人と関わる仕事がしたいという気持ちがより強くなりました。盲学校の先生方はとても明るくて、笑顔が素敵でした。先生方の明るさが、生徒の皆さんの学校生活を明るくしていると感じたので、私も将来、自分が笑顔でいるだけでなく、相手のことも笑顔にできる人を目指したいと思いました。人と人は支え合って生きているので、相手の気持ちを考えたり、自分のこととして相手の立場を想像したりすることで、周りの人達を支えられるようになりたいです。

別紙の用紙に感想を記入してください。

担当：302，303 次回の放送は1月22日です。

